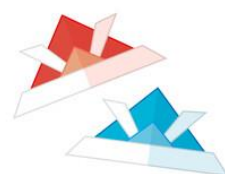


S/F REAL4

Q&A



 あいホールディングスグループ 

株式会社 **ドットウェル** ビー・エム・エス

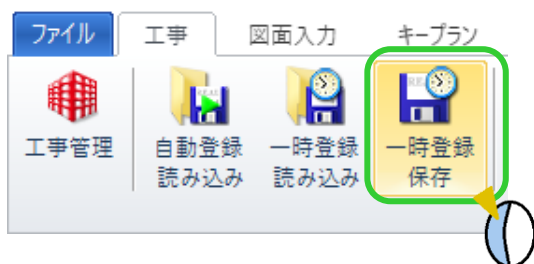
DATA LOGIC



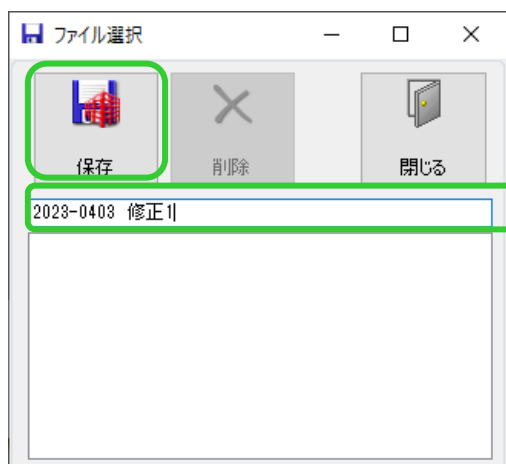
一時登録保存と読み込みについて知りたい！

どのタイミングで保存したかを確認して読み込みが出来ます。

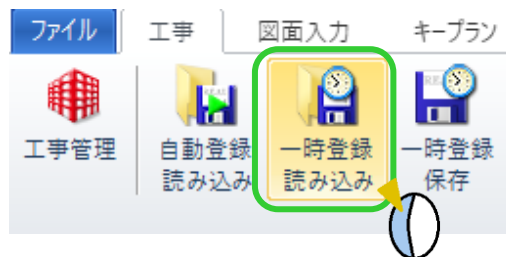
【工事】 - 【一時登録保存】をクリックします。



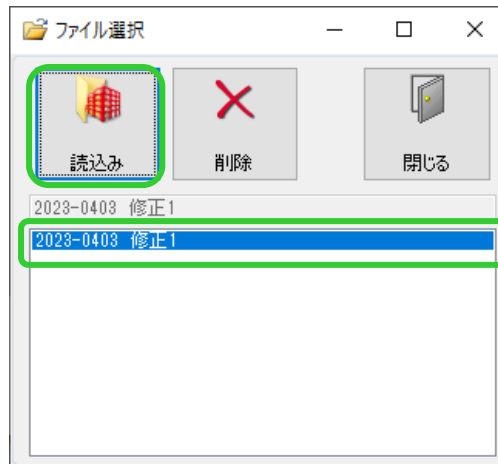
保存したタイミングがわかるように
名前を付けて、「保存」をクリックします。



【工事】 - 【一時登録読み込み】をクリックします。

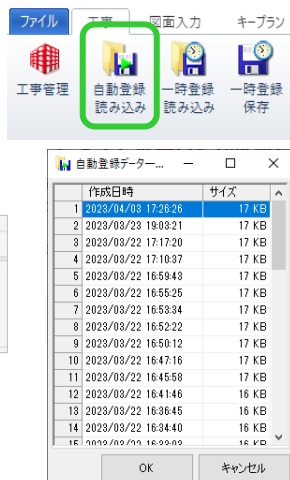


読み込みたい名前を選択して、「読み込み」
をクリックします。



自動登録読み込みは【ファイル】 - 【REAL4のオプション】
にある自動登録ステップ数で保存された保存日時で登録さ
れます。

例) 自動登録ステップ数：5
コマンドを5回実行すると
自動保存がかかります。



一時登録では、マスターファイルは保
存されません。

マスターファイルは **OK** ボタンをク
リックした時点で保存されます。





既製品ベースを使用したい！

ベースマスターで既製品ベースを登録できます。

【ベースマスター】を開きます。

【ベース種類】で、使用したい既製品ベースのタイプを選択します。



ベース種類の一覧に記載のない場合は、データロジックインフォメーションへお問い合わせください。

【ベース型式】をクリックすると、既製品ベースの**ベース選択画面**が表示されます。

該当サイズを選択し、**OK**をクリックします。

ベースマスター画面に戻り、既製品ベース情報が読み込まれます。**OK**をクリックし、ベースを登録します。



【リスト】：使用したい型式を選択できます

【断面図】：既製品ベースの断面図を表示します

【ベース型式】：リストで選択している既製品ベースの記号を表示します

【柱形状】：コラム、パイプ、H等、柱の形状を選択します

【アンカーボルト長さ】：アンカーボルトの長さを入力します

※アンカーボルト長さは、各既製品ベースの柱脚工法標準図、施工標準図、カタログ設計ハンドブックを参照し、自動で選択されています。

❓ 柱や梁を外面で揃えて配置したい！

鉄骨基準を設定することで外面に揃えて配置ができます。

例) 通りから柱・梁の外面が75の場合

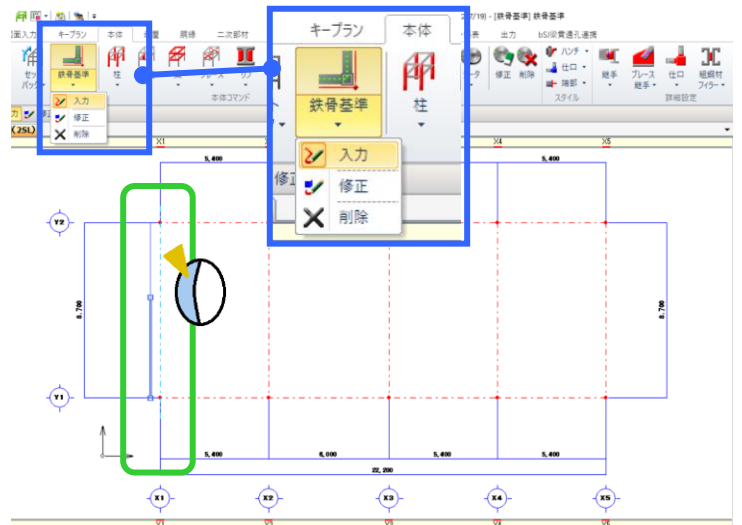
【本体】 - 【鉄骨基準】 - 【入力】を選択します。

鉄骨基準を設定したい通りをクリックします。

右側の入力シートで各項目を入力します。

今回、通りから外面までが75なので間隔に75と入力。配置基準を内側に変更します。

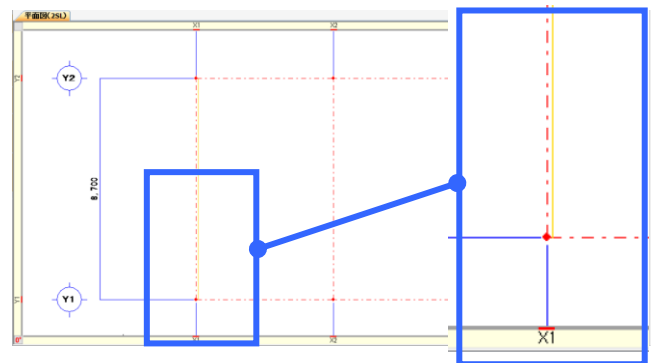
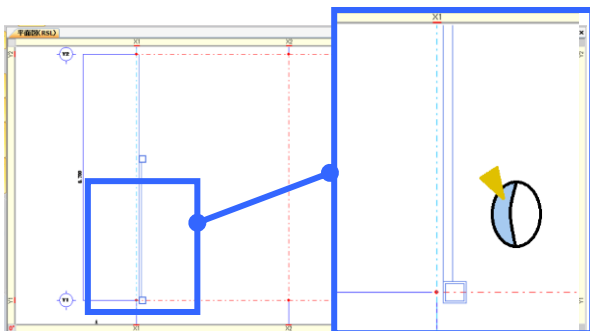
鉄骨基準 - 入力 [190]	
項目名	設定値
間隔	75
配置基準	2 - 内側
柱配置時参照	2 - する
梁配置時参照	2 - する



選択した通りに対して内側にマウスを持ってくるとガイド図が表示されます。

今回は選択した X1 通りより内側(右側)にマウスを持ってくる左クリックすると鉄骨基準が設定できます。

<鉄骨基準設定後>



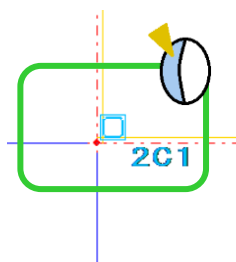
<鉄骨基準を使った柱入力>

各通りに鉄骨基準を入力後に各部材を配置していきます。

【柱】 - 【入力】を選択します。【鉄骨基準参照】 - 【する】を選択し、部材を選び配置してください。

柱の場合、マウスを通り交点に近づけると鉄骨基準を参照したガイド図が表示されるので左クリックで配置します。

本柱 - 入力 [210]	
鉄骨基準参照	する
項目名	設定値
符号名	【符号管理】
部材名	2C1
サイズ	□-250x250x12
サイズ(T1)	
サイズ(T2)	
配置基準	5 - 中中



<柱角度>

柱や間柱の場合、鉄骨基準参照「する」にすると角度を入力しても角度を参照しなくなります。H柱など外面合わせでも角度を変更したい場合、鉄骨基準参照「しない」にして角度、ずれ量など入力し配置します。

梁の場合も同様に鉄骨基準参照「する」にして配置入力することで外面合わせで配置ができます。

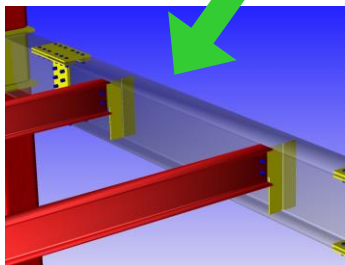
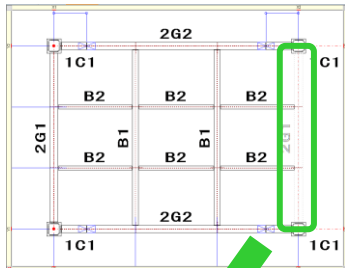
一部の柱や梁が外面合わせになっていない場合は鉄骨基準参照「しない」にして、配置基準やずれ量などを設定し、配置入力を行います。



既存の柱や梁に接続するガセットを入力したい！

ダミー部材を使用することで入力が可能です

【本体】 - 【梁】 - 【入力】または【修正】にて入力シートの
【部品種類】を「2 - ダミー」に変更します。



梁 - 入力 [230]	
鉄骨基準参照	する しない
連続入力	する しない
補助線基準	する しない
項目名	設定値
符号名	【符号管理】
部材名	B2
サイズ	H-200x100x5.5x8
部材向き	5 - 縦
配置基準	1 - 部材芯
配置基準(側面)	2 - 上側
上下基準	2 - 階上下(鉄骨ライン)
上下数値	0
奥行き数値(側面)	0
部材反転	1 - (垂直(梁))の反転
部品種類	2 - ダミー
梁の中心合わせ	1 - (梁の中心)の中心
けた梁高さ	1 - (柱芯)のパラメータ参照
納め	1 - 自動
左側	
継手距離	0
継手(左)	(BJ20)マスター参照
すきま(左)	(10)マスター参照
ハンチWEB基準	1 - (マスター)自動決定
垂直ハンチ合わせ	1 - 自動
右側	
継手距離	0

既存の柱も同様に部品種類を「2 - ダミー」に変更します。

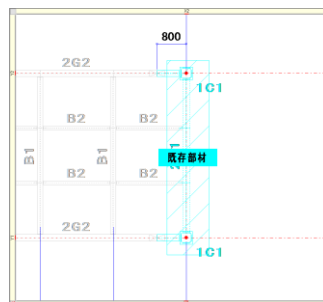
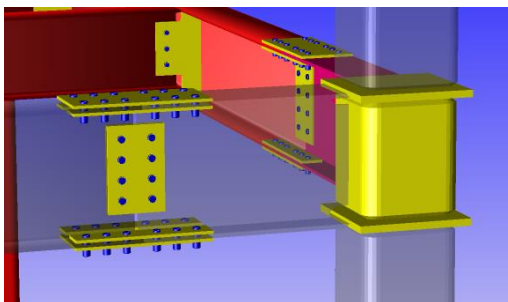
本柱 - 入力 [210]	
鉄骨基準参照	する しない
項目名	設定値
符号名	【符号管理】
部材名	2C1
サイズ	□-300x300x16
サイズ(T1)	
サイズ(T2)	
配置基準	5 - 中中
角度	
ずれ量X	0
ずれ量Y	0
カラー	<無>
欠配ID	<自動設定>
セトリックID	<自動設定>
部材反転	1 - 反転なし
部品種類	2 - ダミー
メモ	
継手	(W=<無>, F=<無>)マスター参照
すきま	マスター参照
上側	
上継手距離	0
下側	
下継手距離	0
継手距離 階高参照	2 - あり
アンカーベース	

ダミー部材につくガセットを入力することが出来ます。



既存の柱をダミーにした場合、シャフトはダミーになりますが、コア部分はダミーになりません。

また、既存の梁もスプライスが不要な場合は【工区・塗装】の【分類】や【グループ】を利用することで既設の部材を加工図や型紙出力時に対象から外すことが出来ます。



分類	
<input checked="" type="checkbox"/> <無>	入替え
<input type="checkbox"/> 既存部材	



ダミー部材として入力した既存の柱や梁を図面に作図したい場合はパラメーターにて設定が可能です。

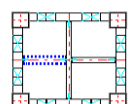
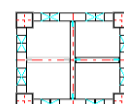
例) 梁伏図へのダミー部材表示方法

図面作成 - 5.梁伏図 - 94) ダミー部材作図 (軸組図・鉄骨詳細図・胴縁軸組図でも設定が可能です。)

図面作成	工事別パラメーター	項目名称	設定値
加工図作成	1. 用紙	91 梁センターライン	1 - なし
	2. マーク・寸法線	92 梁センターライン位置	2 - 接続先交点
	3. 3通り	93 梁部材厚ライン	3 - 非対称部材のみ
	4. アンカープラン図	94 ダミー部材作図	2 - あり
データ作成	5. 軸組図	95 フラスト位置	
	6. 継手基準図	96 リストサイズ名称 (mm)	25
二次部材作成	7. 柱詳細図全般	97 リストサイズ部材 (mm)	80
	8. 柱詳細図	98 リストサイズ継手 (mm)	30
	9. 柱詳細図	99 リストサイズ備考 (mm)	30
データ連動	10. 梁詳細図	100 リスト行間隔 (mm)	0
	11. 梁詳細図		

1. なし

2. あり





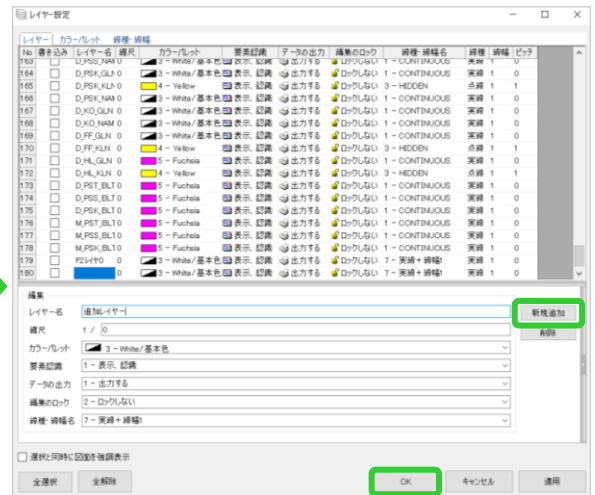
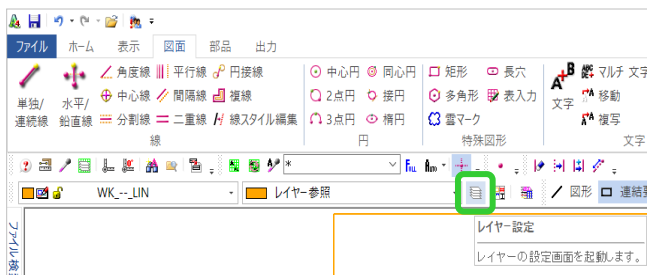
Arrisで編集したデータにREAL4で出力したデータを合算したい！

図面出力時、出力モードを合成で出力します。

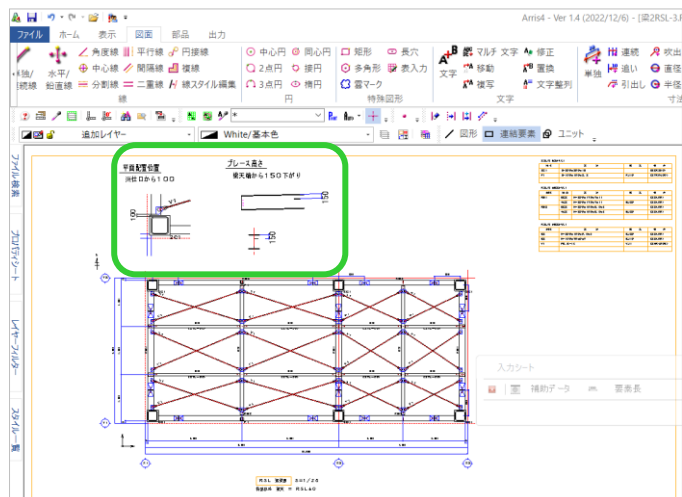
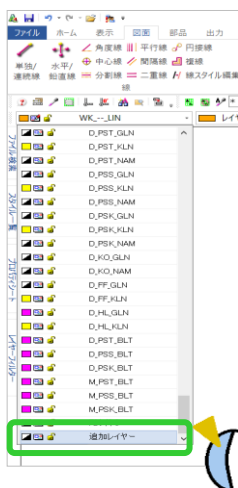
REAL4 から出力した図面を Arris4 や Arris3 で開きます。(※今回は Arris4 でご説明いたします)

【図面】 - 【レイヤー設定】  をクリックします。

【新規追加】をクリック、レイヤー名やカラーパレットで線の色を設定して **OK** ボタンをクリック、レイヤーを追加します。



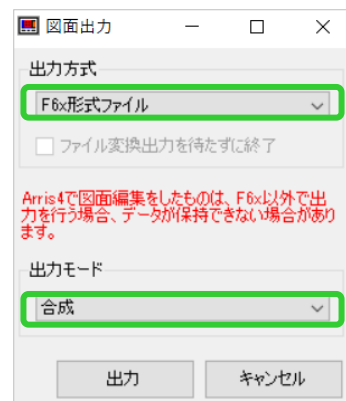
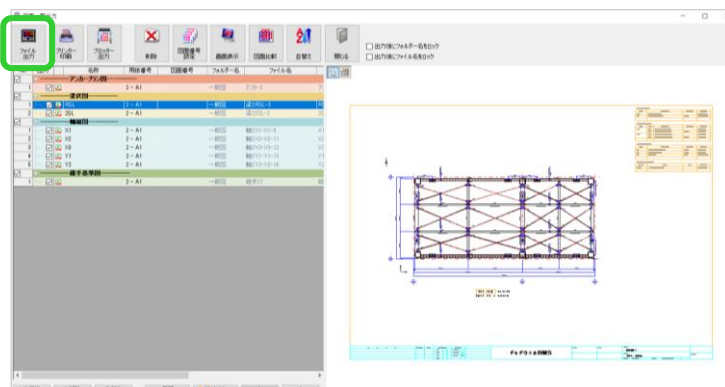
追加したレイヤーを選択して、図面に追加したい内容を書き込み書き保存します。



REAL4 で各図面を更新後、ファイル出力を行います。

【作図タブ】 - 【図面一覧出力】 - 【ファイル出力】をクリックします。

出力方式を **【F6x ファイル】** か **【F5 ファイル】** を選択し、出力モードを **【合成】** で出力します。

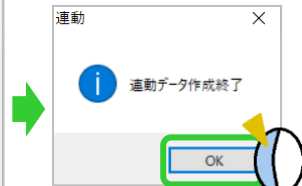
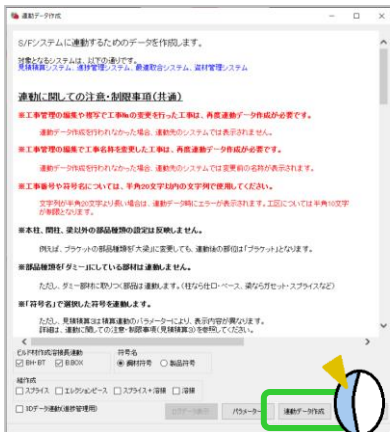


①REAL4のデータを見積積算4へ連動したい！（データ連動）

REAL4 側で連動データの作成が必要になります。

REAL4で【出力】 - 【連動】をクリックします。

連動に関する注意事項が表示されますので、内容をご確認いただき、【連動データ作成】をクリックします。



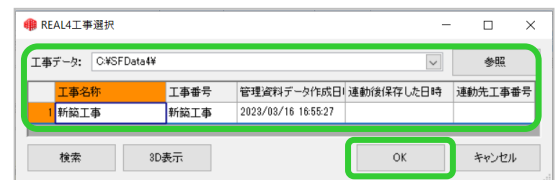
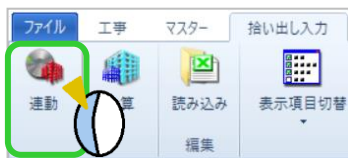
連動データ作成が終了したら【OK】をクリックします。



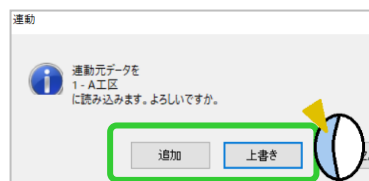
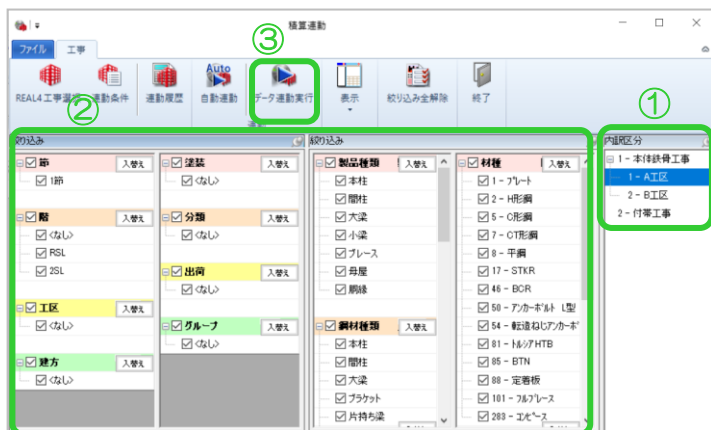
見積積算4の拾い出しリストに製品符号を連動したい場合は、REAL4にて【符号管理】、塗装（錆止め/メッキ）や工区情報を連動させたい場合は【工区・塗装】にて設定を行ってから連動データ作成してください。

REAL4での作業は以上になります。

見積積算4を起動後【工事管理】より連動データを保存する工事を選択し【マスター】 - 【内訳区分】を作成した上、【工事別マスター】へ保存します。【拾い出し入力】 - 【連動】をクリックし【REAL4 工事選択】より連動したい工事を選択します。



積算連動画面に連動元工事データに、先程選択した工事が表示されますので①内訳区分から連動先の区分を選択し、②絞り込みにて連動したいデータのみ選択、最後に③【データ連動実行】をクリックします。



最初の読み込みであれば【追加・上書き】は同様の意味となりますので、どちらかをクリックし読み込みます。

同様に他の内訳にも【データ連動】を行ってください。

積算連動画面を閉じると、それぞれの内訳に拾い出しデータが連動されています。



内訳区分		拾い出しデータ	
No.	部位	材料	単位
1	1-A工区	45 - BCR	300x300x19
2	2-B工区	45 - BCR	300x300x19
3	3-C工区	45 - BCR	300x300x19
4	4-D工区	45 - BCR	300x300x19
5	5-E工区	45 - BCR	300x300x19
6	6-F工区	45 - BCR	300x300x19
7	7-G工区	45 - BCR	300x300x19
8	8-H工区	45 - BCR	300x300x19
9	9-I工区	45 - BCR	300x300x19
10	10-J工区	45 - BCR	300x300x19
11	11-K工区	45 - BCR	300x300x19
12	12-L工区	45 - BCR	300x300x19
13	13-M工区	45 - BCR	300x300x19
14	14-N工区	45 - BCR	300x300x19
15	15-O工区	45 - BCR	300x300x19



②REAL4のデータを見積積算4へ連動したい！（自動連動）

製品種類毎に連動先を自動で割り当て可能になります。

REAL4にて連動処理が必要です。

REAL4での設定方法は【①REAL4のデータを見積積算4へ連動したい！（データ連動）】をご参照ください。

見積積算4を起動し【工事管理】より工事を選択した後、【内訳区分マスター】にて内訳区分を作成します。

連動先の内訳区分では 製品毎、もしくは各部位毎に連動先を選択することが可能です。



製品種類タブにて設定を行うと、製品毎に連動先の内訳区分設定が可能になります。更に部位指定をすることによって、製品に溶接されるものでも詳細に内訳区分を設定する事が可能です。

部位種類タブにて設定を行うと、製品として纏めず、単品毎で内訳設定を行うことが可能です。

製品種類と部位種類は各々設定できます。

連動時にどちらか選択します。

連動先の内訳区分

製品種類

部位種類

☒ 部位指定

【拾い出し入力】 - 【連動】をクリックすると積算連動画面が開きます。

【自動連動】をクリックすると自動連動画面が表示されます。

自動連動画面にて、事前に設定していた内訳の**製品種類**か**部位種類**を使用するのか、もしくは**製品種類**を使用し、**部位設定**も使用するのかが選択した後【OK】にて確定します。

自動連動するかの確認画面が表示されますので、【OK】をクリックし、連動を終了します。

No.	部位	材質	サイズ	フランジ材質
1	本柱	45 - BCR	800x300x19	45 - BCR205
2	14 - 仕口	45 - BCR	800x300x19	45 - BCR205
3	25 - 横シタ	1 - フレート	22	21 - S4400
4	99 - アンカベース	1 - フレート	28	21 - S4400
5	42 - ベース	1 - フレート	9	21 - S4400
6	130 - 裏当て金	9 - 平鋼	8x25	1 - S4400
7	108 - 脚継ぎ支持ベース	203 - スペース	100x40x4.5	1 - S4400
8	129 - 定着板	88 - 定着板	12x60x40(M20)	1 - S4400